

モデル事業名	桜島まるごと体験村プロジェクト
活動団体名	特定非営利活動法人 桜島ミュージアム
ホームページ	http://www.sakurajima.gr.jp/
所属/ 担当者名	大村 瑛・中道 彩
連絡先	099-245-0100
活動地域	鹿児島県鹿児島市桜島

### ● 活動地域の概要

#### 【概要】

- ・ 桜島は鹿児島県本土のほぼ中央部に位置する。平成 16 年の市町村合併に伴い、西桜島（旧桜島町）と東桜島（鹿児島市）が合併し、桜島全体が鹿児島市となった。西桜島には 11、東桜島には 7 の集落があり、古里地区は東桜島の集落のひとつである。

#### 【人口】

- ・ 桜島の人口は約 5,700 人（西桜島 4,158 人、東桜島 1,547 人）である。
- ・ 鹿児島市全体の人口は増加し、高齢化率も 2 割程度であるのに対し、桜島の人口は減少傾向にあり、高齢化率も高い。特に、古里地区ではその傾向が顕著である。

#### 【産業】

- ・ 温暖な気候を生かし、桜島小みかん・びわなどの農作物の栽培が盛んである。ただし、人口減少や後継者不足等からこのところ衰退気味であり、耕作放棄地も増えている。
- ・ 古くから有名な温泉地であり、現在も 3 軒の温泉旅館があるが、団体旅行の減少などもあり、このところ衰退傾向にある。

#### 【交通】

- ・ 桜島と鹿児島市街地とを約 15 分で結ぶ桜島フェリーが 24 時間、特に日中は 10～15 分毎の高頻度で運航され、往来は便利である。
- ・ 路線バスが桜島港から 1 時間に 1 本程度運行されている（古里地区まで約 15 分）。
- ・ 薩摩半島と大隅半島を結ぶ幹線道路・国道 224 号線が通っている。



桜島古里地区



耕作放棄地（ビワ畑）

### ● 活動地域の課題

本事業を実施する古里・有村地区の人口構成は以下の通りである。（古里・有村を合計した値）

	世帯数	総人口	0-19 歳	20-64 歳	64 歳以上	高齢化率
平成 17 年 3 月末	124	205	7	80	118	57.6%
平成 20 年 3 月末	117	191	19	68	104	54.5%

東桜島の中でも、古里・有村地区は高齢化率が 50% を超えており、高齢者の一人暮らしも多い地域である。地区の人々の高齢化が進むと共に、耕作放棄地、空き家が年々増加している。地区の町内会の人々の中からこの状態を打開するために何か行動を起こしたいという意見が挙がった。

そのため古里・有村地区では、このような耕作放棄地や空き家を有効利用するために活動目標を設定し、目標に向け実際に活動することが今後の課題である。

### ● 活動の内容

（全体）

耕作放棄地を 184m<sup>2</sup>（14m×6m・10m×5m・10m×5m）開拓したほか、桜島小みかんの畑（約 200m<sup>2</sup>）、ビワの畑（約 600m<sup>2</sup>）の整備を行った。耕作放棄地を畑に開墾し、野菜を収穫するまでの成果を得た。合計で約 1000m<sup>2</sup> の畑の整備を行い、当初の目標を達成することができた。

また、本プロジェクトでは空き家にスタッフ 1 名が常駐する体制をとっていた。本プロジェクトが終了しても、スタッフがそこに住み続けるため、空き家を一軒解消することに貢献できた。

全 6 回の体験村プロジェクトを通して、都市部の若者と古里地区の方々との交流は十分に図れたものと思われる。

(直近1年間の進捗など)

今年度の活動は、1) 前年度に開墾した畑を維持していくこと、2) 活動を続けるための資金をつくること、の2点を目的として、「桜島まるごと体験村」をマイナーチェンジし「さくらじま体験村」として取組んだ。前年度は、1泊2日の農作業と地域の様々な体験を行うことで参加費(食費)を集めて開催していたが、今年度は日帰りの農作業のみの参加費無料で開催した。前年度の参加者で引き続き今年度も参加してかかわってくれる方、新規で体験村の農作業に参加される方、昨年よりも多くの方にかかわりをもっていただいで活動を行っている。また、資金確保のために、無人販売所を作る計画があり今年度中には完成する予定である。

## ● 活動の成果

### ・全体

耕作放棄地の解消及び空き家の有効活用を本プロジェクトの課題として設定していたが、そのどちらの目標も達成することができた。また、本事業が終了しても、本団体のスタッフがその空き家に移り住むため、古里地区の住民が1名増えた上、1軒の空き家を解消することにつながった。

本プロジェクトで「耕作放棄地を開墾して畑にする」「外部からの移住者がその地域に住みつく」など、地域住民に、目に見える形で地域の変化を伝えることができたのは、大きな成果であった。最初は遠巻きで見ているだけの地域住民が、現地での作業中に声をかけてきたり、夕食時に差し入れをもってきたりするなど、徐々にではあるが興味をもち始めたことも評価すべき点である。

また、参加者、地元住民、スタッフなどが同じ時間を共有し互いの関係性が深まったことも大きな成果である。単発的なイベントではなく継続的にその地域に通う今回のプロジェクトでは、参加者をはじめ、かかわった全ての人がある地域に対して愛着をもつようになった。このことは、彼らが地産地消を積極的に実行するようになったことから伺え、最終的には二地域居住や移住にもつながることが期待される。今後、過疎高齢化を迎える多くの地域において、今回のようなプロジェクトが、移住者などを増やす有効な手段の一つであることを改めて示す事ができた。外部との交流がほとんどない桜島の一つの集落において、地元住民と都市部の住民とのつながる場(小さなコミュニティ)を提供することができたのは、本事業の成果によるものである。

### ・直近1年間の成果など

昨年度に引き続き「さくらじま体験村」として無料の農業体験を古里地区で行っている。昨年度から引き続き参加する参加者もあり、参加者の年齢層も幅広いものになっている。桜島ならではの農作物をメインに農業体験を実施しているため、鹿児島市内でも興味のある方の参加が目立っている。今年度中に無人販売所を作り、自主財源の確保に向けて取組んでいる最中である。

## ● 今後の課題及び展望

### ・課題

#### ○活動資金の確保

無人販売所を作ることで、資金面の確保をカバーしようと考えているが、どれだけの収益があげられるか想像の域をでない。とりあえず、販売所をつくるのが今年度の最大の目標であるが、もし収益がそれほどまでに得られない場合には、その他の収益をあげる方法を考える必要がある。

#### ○地域住民の巻き込み

昨年度から引き続きかかわってくれる方はいらっしゃるが、積極的にかかわる人はまだそれほど多くはない。どのようにして住民を巻き込んで行くか、もう一度考え計画を練り直す必要がある。

#### ○スタッフのモチベーションの確保

スタッフの活動がボランティアベースなため、スタッフ自身のモチベーションの維持が必要である。小額ではあるが報酬があったり、楽しんで活動に参加できたりするような仕組みづくりが必要である。この活動を継続していくにあたり、全面ボランティアでは継続することは難しいと感じられる。

### ・展望

無人販売所を地域の方々に活用してもらえるような仕組みをつくりたい。また、ゆくゆくは、無人販売所だけでなく、ファーマーズマーケット・朝市のような地域全体で取組むような場を設けたい。それが、収益の柱の一つになれば、この活動も持続していくことが可能なのではないかと思われる。

## ● その他(自由記述)

この活動を通じて、スタッフのモチベーションの維持と、資金の確保が最大の課題であると感じている。他の団体の参考となるような事例を是非お聞きしたい。